

各数字の内容を確認されましたら、左の□に✓をお願い致します。

(1) 内視鏡検査・手術の内容

- ① 内視鏡検査はがんやポリープ、潰瘍、炎症など病気の有無や程度を調べるものです。
- ② 内視鏡検査中に病変があった際、粘膜の一部を採取(生検)し顕微鏡(病理)検査を行います。
- ③ ポリープ手術方針

【胃ポリープ】

胃底腺ポリープであることが多く、この場合、がんになるリスクはほとんどありません。そのため、通常は切除しません。ただし、ピロリ菌感染を合併している、大きい、目立つなど特殊な場合は切除することがあります。

【大腸ポリープ】

腺腫であることが多く、この場合、切除により大腸がんを予防できます。腺腫と診断した場合は切除します。ポリープの数が多い場合、後日改めて残りのポリープの手術を行います。ポリープのサイズが大きい場合や切除により出血の危険性が高い場合は、入院施設での手術をお勧めしております。がん化しないタイプのポリープと診断した場合は切除しません。

(2) 内視鏡検査・手術の偶発症

- ④ 薬による副作用
キシロカイン、ドルミカム、ペチジン、ブスコパン、グルカゴン、ニフレック、マグコロールP、プルゼニド、ビジクリア等による、アレルギー反応（アナフィラキシーショック：呼吸抑制、吐気、蕁麻疹、血圧低下）、腸閉塞、腹痛、眠気等の副作用が起きることがあります。重大なものは17000件に1件の割合です(0.0059%)。
- ⑤ 合併症
ショック、出血、穿孔（消化管に穴があくこと）等を起こすことがあります。1450件に1件の割合です(0.069%、ポリープ手術等の治療を行った場合を含む)。合併症の中では大腸ポリープ切除後の出血(血便)が多く、術後1週間以内に起きることがほとんどです。安静のための入院、緊急内視鏡・入院・手術・輸血が必要になることがあります。その際の費用は患者様のご負担となります。
胃内視鏡後、喉の痛みが現れることや、大腸内視鏡後、痔が悪化し、時に脱肛し出血をきたすことがあります。それぞれ治療を要することがあります。

(3) 内視鏡検査・手術の注意事項

- ⑥ 生検、手術をした場合、術後には食事・飲酒・スポーツ・旅行など、生活上の制限があります。検査後1週間は重要な仕事、出張、スポーツ、旅行、会食などの予定を入れないようお願い致します。予定がある場合には、手術を後日改めて行う方針とすることがあります。
- ⑦ 胃腸内の前処置が不十分であるなど、観察が困難な場合があります。その際、再検査が必要になることがあります。
- ⑧ 検査当日は、自動車、バイク、自転車の運転や危険を伴う仕事は行わないで下さい。検査後の状況によっては、お帰りの際、付き添いやタクシー利用が必要な場合があります。
- ⑨ 妊娠の可能性のある方は検査をお受けできませんので事前にお申し出ください。授乳中の方も使用する薬の制限がありますのでお申し出ください。

(4) 麻酔に関すること

- ⑩ 別紙、麻酔に関する同意書を確認してください。

(5) 検査説明

- ⑪ 検査説明は後日診察時改めて行います。外来予約をお取り下さい。
大きいポリープを手術した場合など、診察のため翌診療日に来院頂くことがあります。

(6) 各種費用

- ⑫ 提出する組織検体の数やポリープ切除等の治療の有無により異なります。
・観察のみ ⇒ 胃：¥3,500～18,000 ・大腸：¥5,500～20,000
・ポリープ手術の場合 ⇒ 胃：¥19,000～27,000 ・大腸：¥19,000～32,000
3割負担の場合の金額で、初再診料、事前検査分等の費用は含まれておりません。
病理診断医が診断確定のために免疫染色を行った場合、1臓器当たり400円～1200円を検査結果時別途ご請求させていただきます。
- ⑬ 内視鏡検査の適正な枠の確保のため、内視鏡検査の際、予約料(検査着料を含む)として1500円(税込)をご負担頂きます。‘キャンセル’や‘検査日時の変更’をされる場合、3日前までにご連絡いただけないとその都度予約料が発生いたします。

(7) その他

- ⑭ 内視鏡で得られた情報を学会発表、研究等で使用致します。個人情報に関しては匿名化を行い適正に管理しております。
- ⑮ 代替可能な検査
上述の内視鏡検査以外に、バリウムなどの造影剤を用いた上部消化管・大腸X線検査があります。しかしX線検査では精度が低く、また、異常を認めた場合に生検を行うことができません。
- ⑯ 検査の同意を撤回する場合
いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは、検査をやめることができます。
- ⑰ 患者様の具体的な希望
検査前までにスタッフに伝えて下さい。

以上につきまして、内視鏡検査・手術にご承諾いただけましたら、ご署名下さい。

_____年 _____月 _____日 _____ご署名_____

_____代諾者_____ 続柄_____

とよしま内視鏡クリニック

説明医師 _____ ㊞

住所：東京都世田谷区成城 6-17-5

電話：03(5429)9555

麻酔の使用目的

内視鏡は本来「とても苦しい検査」です。麻酔は、その苦痛を軽減し、安全にかつ精密な検査を行うために麻酔を使用します。

麻酔の効果には個人差があり、麻酔をしても、時には「苦しかった。」「意識があった。」ということがあります。麻酔は苦痛を軽減することが主目的であり、意識をなくすことそのものを目的としておりません。

使用する麻酔薬

主な薬剤は、① ドルミカム、② ペチジンです。それぞれの適宜特徴を考慮し個別に薬剤を選択しております。

① ドルミカムには、苦痛緩和を目的とする鎮静作用があります。鎮静作用が強い時は、意識がなくなります。薬の効果を打ち消す拮抗薬（アネキセート）があります。

抗不安薬や睡眠薬（デパスやレンドルミン等）を普段から使用されている方は、麻酔の効果が弱いことがあります。

② ペチジンは、鎮痛作用と鎮静作用がある麻薬性鎮痛薬です。鎮静作用が強い時は、意識がなくなります。薬の効果を打ち消す拮抗薬（ナロキソン）があります。

麻酔の副作用

副作用には、アレルギー反応（アナフィラキシーショック：呼吸抑制、吐気、蕁麻疹、血圧低下）、眠気、脱抑制、頭痛があります。状況により処置を有し、また、麻酔から目覚めるまで時間がかかります。検査中体動が強い時、ベッド転落等危険を防止するために、身体を抑えることがあります。

以上、麻酔の使用目的と使用する麻酔薬の効果、麻酔の副作用等を理解したうえで、麻酔の使用に同意します。

_____年 _____月 _____日 _____ご署名_____

_____代諾者_____ 続柄_____

とよしま内視鏡クリニック

住所：東京都世田谷区成城 6-17-5

電話：03(5429)9555